

モモ若木期の収量が増加する新樹形

定植5年目の若い木でも果実が多く採れる整枝法を開発しました

【背景・目的】

モモ栽培では、定植して初めの5年間ほどは収量が少なく、農家所得の確保が課題でした。

そこで、慣行台木と比べて、樹高がやや低く抑えられ、枝の広がりが小さい「ひだ国府紅しだれ」台木を用い、若木期でもある程度収量が得られる植え方や整枝法を組み合わせた技術を開発しました。

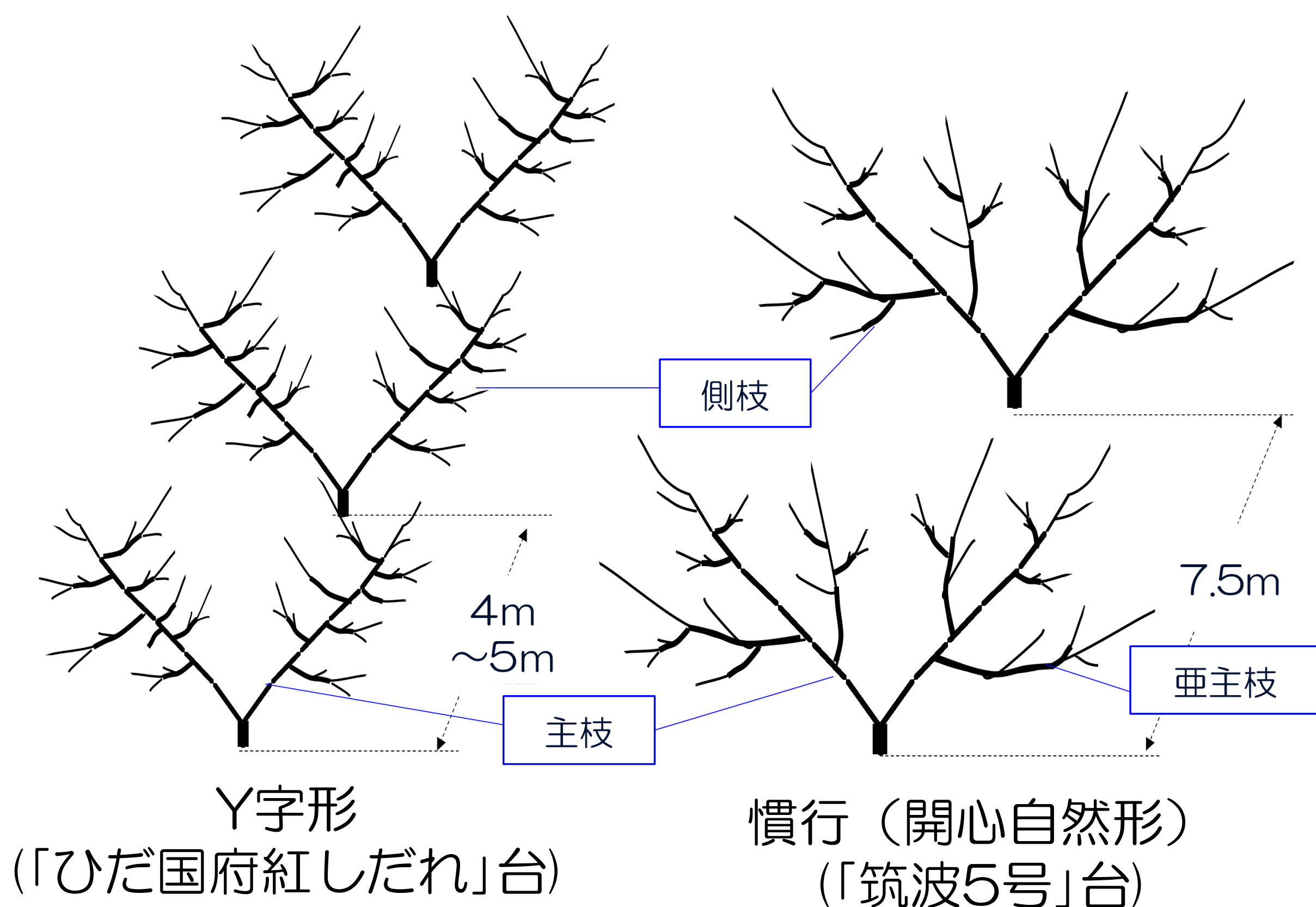


図1 Y字形と慣行の樹形イメージ

【成果の内容】

1. Y字形新樹形は、「ひだ国府紅しだれ」台を用いた2本主枝仕立てとし、亜主枝を配置せず、主枝上に側枝のみを配置するY字形の樹形とします。栽植様式は、樹間は4～5m、列間は7mとします（図1、図2）。比較した慣行樹形は、「筑波5号」台を用い、2本主枝にそれぞれ2本の亜主枝を配置する開心自然形（樹間7.5m、列間7m）です。
2. 果実品質には、慣行樹形との差は認められません（表1）。また、5年生までのY字形樹では10a当たり収量は慣行樹形に比べて1.45～1.6倍と多くなりました。
3. Y字形樹は1樹当たりの枝の広がりが小さいため、圃場の形状に合わせて植栽しやすく、狭小な園地でも土地利用効率が高いことが特長です。
4. 収量や品質は、5年生時までのデータであり、その後の収量、品質及び経済寿命などについては継続して検討しています。

表1 樹形及び樹間の違いが「清水白桃」の5年生時の果実重及び糖度、若木期（5年生）までの合計収量に及ぼす影響（2016～2020年）

樹形	樹間	5年生時		若木期（5年生） までの合計収量 (kg/10a)
		果実重 (g)	糖度 (° Brix)	
Y字形	5m	303	13.4	2246.4 (145.6) ²
Y字形	4m	311	13.1	2469.4 (160.1)
慣行	7.5m	309	13.5	1542.8 (100.0)

²() 内の数字は慣行を100とした時の対比を示す



図2 Y字形樹での作業風景

お問い合わせ先

岡山県農林水産総合センター
赤磐市神田沖1174-1

農業研究所

TEL. 086-955-0271